

令和5年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 若園 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和5年4月18日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語、算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）
① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
② 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○ 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

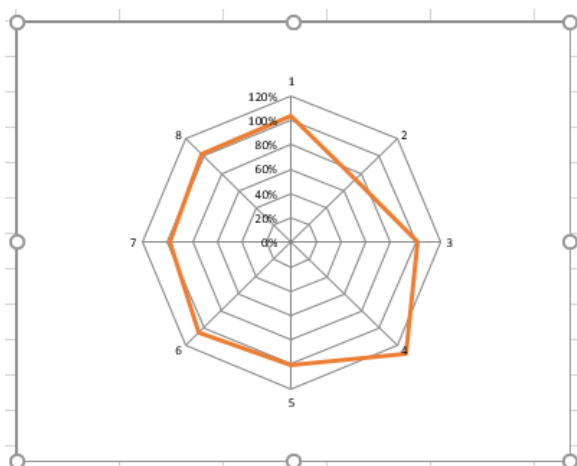
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.4	59
全国	9.4	67	10.0	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全国平均をわずかに下回った。記述式問題に対する無回答率が高い。漢字と文の中で正しく使ったり、敬語の使い方を問われたりする問題はよくできている。しかし、記述式問題の正答率が低く、自分の考えを適切な文で表現する力に課題がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	漢字や敬語を文の中で正しく使う問題 資料に書かれている内容を読み取る問題	
	努力が必要な問題	自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したり、まとめたりする問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	全国平均を下回った。無回答率は全国平均とほぼ同じ程度だが、グラフから読み取ったことや求め方と式を言葉や数で記述する問題の無回答率が高い。「変化と関係」領域の正答率が高く、「図形」領域の正答率が低い。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「変化と関係」領域において、比例関係にある表から変化の特徴を読み取る問題	
	努力が必要な問題	「図形」領域において、正三角形の意味や性質を問われる問題 面積の大小を判断しその理由を記述する問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析	
・読書が好きな児童、読書量は全国平均を大きく上回った。小倉南図書館が校区にあることや朝読書の推進、地域図書ボランティアによる読み聞かせなどの成果であると考ええる。	
・本校が、毎年課題としている自尊感情については、「先生はよいところを認めてくれている」が全国を上回り、「人の役に立つ人間になりたい」は100%の児童が肯定的な回答をしている。本校が、人権教育やキャリア教育に力を入れて取り組み、一人一人を大切にすることを続けてきた成果だと考える。	
・家庭等での学習において、学校の授業以外で1時間以上学習している児童の割合が少ない。全校で、学年の実態に応じた家庭学習や自主学習ノートに取り組んでいるが、今後も継続していく。家庭と連携を図り、学校と家庭が協力して学力向上を目指していく必要がある。また、「朝食を毎日食べる」「同じくらの時間に寝る」児童の割合が低かった。家庭の協力が必要である。	
・ICT活用については、授業時間に関する回答は全国平均を上回ったが、授業以外での使用は下回った。一人一人の課題に合わせてICTを活用する個別最適化学習を推進していかなければならない。	

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- 学力向上に関する職員研修①全国学習・学力状況調査で明らかになった課題等の共通理解。②スクールプランの見直し。
- わかっちょレンジノートの継続的な取組（朝の取組…国語タイム・算数タイム）
- 学習スタイルの確立…めあて・まとめの提示と振り返り時間の確保，ノート形式等についての共通理解
- 今年度から研究主題を算数科とし、「わかった」「できた」と、確かな力を身に付けることができる算数科学習に取り組んでいる。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- 学年の実態に合わせた課題を設け、自主学習ノートを奨励したり、学校だよりや学年通信などで家庭学習の意義や進め方などを発信したりして啓発していく。
- 生活リズムが整った健康的な生活づくり…学校栄養教諭による食育の取組・家庭科学習の充実・学校だよりや保健だより等で家庭へ啓発を行う。